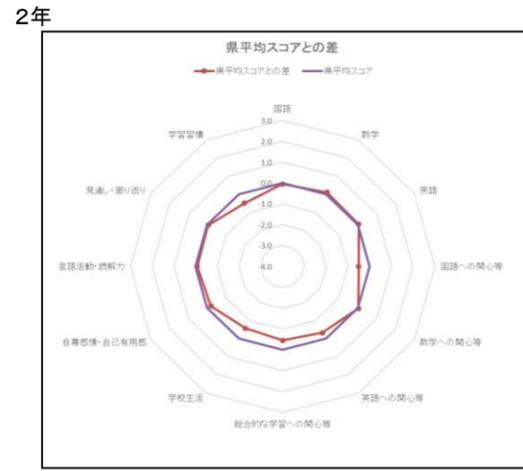
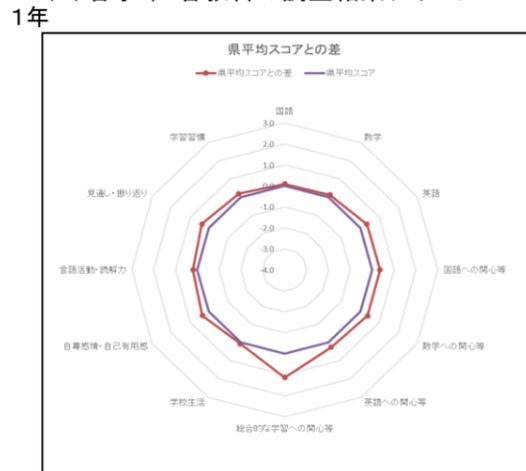


令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立第二中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○いずれの領域においても、正答率が県平均を上まわっており、全体的に国語の力が身につけている。 ●漢字の読み書きについては、県平均を下まわるものがある。	・授業で漢字の小テストを継続して行う。
	数学	○計算練習を、パワーアップなどで繰り返し学習したため、数学的な技能が身についた。 ●文字式の計算に課題がある。特に分数の文字式の計算の仕方の理解が充分でないと感じた。	・1次式の加法・減法の計算と、方程式の計算(分数)を重点的により繰り返し練習をさせる。(練習問題などを利用して) ・数学的な見方や考え方は、無解答率も高かったので、説明をしたり、自分の考えを書いたりする場面を増やす。
	英語	○単語や英文を「書く活動」を多く取り入れて、書く力の育成を年間を通して一貫して行ったことにより、成果が見られた。 ●長文の読み取りや問題を理解する力には、課題がある。	・教科書以外の長文を読んで、日本語訳や問題を解く時間を増やし、外国語理解の能力を養いたい。 ・指導書の長文や「読みトレ」等の教材を活用したい。
2年	国語	○読む領域では全ての間で県の平均正答率を上回る。 ○全体の平均正答率は県を0.8%下回るが、ほぼ県の正答率のチャートと重なる。 ●複数の資料や複数の意見を比べる問の正答率が下がる。 ●国語の勉強が好きでない生徒の割合が県を大きく下回る。	・楽しく主体的な学びを目指す。 ①さらに詳しい意識調査の実施、苦手意識の所在把握。②楽しく言語を学ぶ単元の工夫。③ICTの活用。 ・複数の資料を読み比べたり、グラフや表と文章を対比させたりする学習を重視する。
	数学	○計算や方程式などの短答式の問題を好む生徒が多い。 ○パワーアップなどの繰り返し学習で計算力が身につけている。 ○数と式、図形領域の知識・技能は、高い生徒が多い。 ●ひらめき、気づきが弱く、加えてよく考え、数学的に処理したり、それらを記述・論述することを苦手とする生徒が多い。 ●関数、資料の活用の領域を苦手とする生徒が多い。	・引き続き、パワーアップなどで基礎計算力を高める。 ・宿題や課題などを通して、家庭学習の習慣化を図る。 ・数学的な活動(手作業や操作活動など)を通して、グラフや表、式を扱い、関連性を考えていく取り組みを多くする。 ・応用、実践問題にも積極的に取り組み、筋道を考え、記述や証明ができるように、粘り強く解答する指導をしていく。
	英語	○物語のあらすじや説明文の大切な部分などを読み取る問題での正答率が高かった。 ●代名詞やhad to を選択する問題での正答率が低かった。	・対話文中の代名詞の使い方の指導を継続的に行う。 ・have to の定着にとどまらず、過去形had to の定着を図る。 ・既習語句や文型を繰り返し活用できるような言語活動を設定する。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	69	52	68
	松江市	69	52	64
	島根県	68	49	62

受検者数
1年生 228 人

(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	76	40	54
	松江市	77	40	54
	島根県	77	38	53

受検者数
2年生 186 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○授業でグループでの調べ学習をよくしている。 ●授業で自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動が県平均に比べてやや低い。	・グループで調べ学習をして終わるのではなく、話し合い活動や自らの考えを発表し、全体で共有することでより深い学びにしていける必要がある。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習を1時間以上したり、復習をしたりする生徒の割合が県平均より高い。 ●携帯電話の使用時間が1時間未満の生徒が約半数しかない。	・生徒は平日にも復習を行うことができている。 ・定期テスト前にあわせて、メディアコントロール週間を設けて、生徒の意識を高める。
2年	授業改善に関わる事項	○グループでの活動や調べ学習、話し合う活動や発表する機会は、授業の中でかなり取り込まれており、生徒の意欲や関心を高めている。 ○学校図書館などを利用した授業を好む生徒が多く、活動を取り入れた授業を好む傾向が、ここにも現れている。	・グループでの調べ学習や話し合う活動は継続して行いつつ、学習の質を上げていけるような教師側からの働きかけ(発問や教材の工夫など)を増やしていく。
	家庭学習に関わる事項	●家庭学習に向かう姿勢や取り組みがやや弱く、その時間も少ない。 ●宿題や課題、復習をきちんと取り組む生徒は5割強しかなく、内容の習得の不十分さの一要因となっている。 ●一日の中で10分以上の読書をしている生徒が40%程でとても少ない。	・家庭学習への取り組みが弱いため、自学の内容を工夫し、家庭とも連携しながら、学習習慣の定着を図る。 ・読書については、図書委員会と協力しながら、読書の楽しさを知ることができる活動を増やしていく。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

